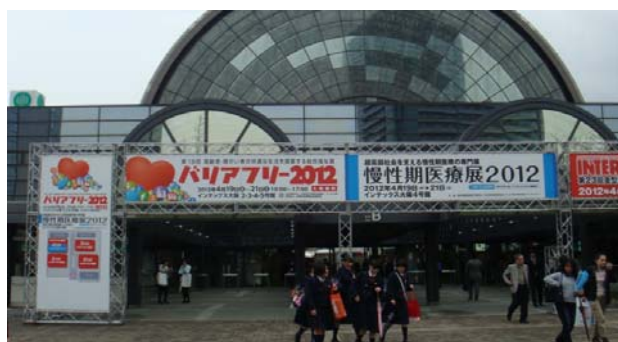


「バリアフリー2012」に参加してきました



平成24年4月20日にインテックス大阪で開催された（大阪府社会福祉協議会など主催）に参加してきました。これは、高齢者や障がい者の方々の快適な生活を提案することを目的とした福祉用具の展示会です。今年で18回目を迎え、福祉機器メーカーを中心に303社・団体が出展し、19～21日の3日間の来場者が約9万人と大規模なものでした。

「バリアフリー（barrier free）」とは、高齢者や障がい者が社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障壁や精神的な障壁を取り除くための施策、もしくは具体的に障壁を取り除いた状態のことを言います。1974年に国連障害者生活環境専門家会議で報告されたことを機に、以後バリアフリーの概念は広く普及し、議論されるようになりました。

しかし、1970代前後からわが国でも地域福祉の重要性が認識されはじめ、国や地方自治体でも地域福祉施策に重点をおいてきましたが、地域における生活の拠点となる住環境に対するバリアフリー化についてはまだまだ十分ではないと言われています。

さらに、世界でも類を見ないほど急速に進む日本の高齢化ですが、今後の高齢化の特徴として、一人暮らしや夫婦2人暮らしの高齢者の増加が見込まれ、より身体機能の低下した高齢者が増加すると予想されます。一方で、2003年の内閣府が20歳以上を対象にした世論調査では「可能な限り自宅で介護を受けたい」といった回答が44.1%を占めています。

右の写真は、浴槽へのまたぎ動作が困難な方に使用されるもので、浴槽に寄せて設置した座面回転式の椅子を用いて入浴動作をスムーズかつ安全に行うことができ、介護者の負担も大幅に軽減されます。一般的な浴槽でも、このように椅子を設置したり、手すりを一本増やすだけでも、動作のしやすさが大きく変わってくることもあります。



今回の展示会では、そのような社会情勢を反映した福祉用具が数多く展示され、住み慣れた場所で安心して生活するための“ヒント”が隠されているような印象を受けました。

今回、「バリアフリー2012」に参加させていただき、福祉用具と一口に言っても、その用途、使用法、デザインなど、多種多様に開発されており、非常に驚きました。私共も理学療法士として、福祉用具に関する知識をより深く学ばなければいけないと痛感しましたし、それだけでなく、最新の福祉用具についても常にアンテナを張り、患者さまに様々な選択肢を提示し、より良い生活が提案できるようにサポートしていきたいと考えています。